

はじめに

構想の役割

この「とちぎ将来構想」は、21世紀に大きく変化する社会の動きを見極めながら、長期的な時代の潮流を踏まえて、経済の活力や人の活力、自然の美しさや心の美しさなど多様な魅力にあふれる「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を創り上げていくための戦略を明らかにし、近未来に向けた県政の羅針盤として、県民の皆さんに示すものです。

また、この構想でお示しする将来像や行動目標は、将来の“とちぎ”づくりのあり方を、県・市町村、団体・企業、そして県民の皆さんが共に考え、協力しあいながら、自立的、戦略的に行動していくための共通の目標でもあります。

この構想は、取組の例示などに新たな発想や新しい考え方を数多く盛り込んでおり、将来の“とちぎ”づくりに向けて、県民の皆様の議論を広げていただくための材料としても大いにご活用いただきたいと考えています。



想定している期間

1 将来を展望する期間

我が国の人口減少や地球環境問題などの影響が本格的に顕在化・深刻化すると考えられる21世紀中葉までを展望しています。

2 取組方向を想定する期間

具体的な政策の検討が可能な期間として、今後10年～15年後程度を想定して、計画的・戦略的な取組の方向を示しています。

構想策定に当たって基本としたこと (この構想を効果的にご活用いただくために)

1 “とちぎ”づくりの理念を示す構想

本県では、「活力と美しさに満ちた郷土 “とちぎ”」という将来像を掲げ、「分度推譲」を県政経営の基本理念に、一人ひとりが自立し、個性や能力を十分に発揮しながら計画的に行動することで、豊かさやゆとりを産み出し、さらに互いに譲り合い支え合うことによって、それを共有していける社会を目指しています。

この構想では、この理念を郷土づくりの基本として、将来の世代にも伝えていくための、私たちの行動の目標を示しました。

2 県民の皆さんとともに目指す将来像

これからの郷土づくり・社会づくりは、県だけでなく県民の皆さんや企業、国、市町村などすべての関係主体の参画と力の結集によって初めて可能になります。

このため、この構想では、県が自ら行うものだけでなく、県民の皆さんや企業の皆さんなどに期待すること、市町村などに期待することなどを含めて記載しています。また、課題によっては国の制度に関する提言なども積極的に盛り込むなど、「“とちぎ”から創る21世紀の日本」という気概を具体化するものとして、将来の世代に託せる栃木県づくりを目標にしています。

3 長期展望を見据えた戦略的な構想

これから予想される様々な社会情勢の変化をできる限り見通し、栃木県の特徴や可能性を踏まえて、戦略的な取組の方向を示しています。このため、この構想の内容は、今後の社会情勢の変化やニーズの変化が予想される事項、取組方向の見直しが必要と予想される事項などを中心としており、必ずしも県の仕事すべてを網羅しているものではありません。

想定する期間は、10年～15年後を基本としていますが、さらに長期的な視点から取り組むべき課題についても併せて記載しています。

また、原点に立ち返って、“とちぎ”の将来像を実現し、想定される課題に対応していくために有効な政策をできる限り盛り込んでおり、県民の皆さんの生活実感からの幅広い共感が得られる構想としました。

4 国会等移転の取扱い

国会等移転については、現在、国会において審議中であり、まだその全体像が示されていないため、この構想では、国会等の移転については言及していません。しかし、この国家的プロジェクトは、本県の将来をも大きく左右する大変重要なテーマでありますので、今後、本県が移転先地に決定すれば、国や関係県などと協力しながら、国会等移転に向けて必要な、本県全体の構想や計画を策定していきます。

構想の基本的な構成

「とちぎ将来構想」は、まず郷土“とちぎ”のあるべき姿を描き、その実現のためにどこに力点を置いて行動していくのかという流れに沿って全体を構成し、「“とちぎ”の将来展望」、「“とちぎ”づくりの取組方向」の2部構成となっています。

第1部「“とちぎ”の将来展望」では、

これからの栃木県を取り巻く21世紀の長期的な潮流を「第1章 時代の潮流」として、また本県の現状や特性、今後本県が伸ばしていくべき優位性や強み、今後の課題などを「第2章 “とちぎ”の可能性と課題」において捉えています。

さらに、その上で、本県の将来像と、それを実現するための基本的な理念を「第3章 “とちぎ”の将来像」において設定しています。

第2部「“とちぎ”づくりの取組方向」では、

第1部で設定した本県の将来像や実現のための理念に基づいて、今後本県の郷土づくりを進めていく上で重要となるテーマや、将来展望により大きな変化が予想されるテーマについて、計画的・戦略的な取組の方向を示しています。

また、個別の「取組の方向」の最後に、それぞれの課題解決に向けて、今後重要になってくるとと思われる取組の主なものを、例示として記載しています。

「とちぎ将来構想」の構成

第1部 “とちぎ”の将来展望

第1章 時代の潮流

・ 今後予想される時代の潮流や社会の変化

第2章 “とちぎ”の可能性と課題

・ 栃木県の現状・特性と、
そこから想定される今後の可能性と課題

第3章 “とちぎ”の将来像

活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”

将来像実現のための基本理念

分度推譲

“とちぎ”づくりの 行動指針

1 “自”
(みずから)
をみがく
～いまから明日へ、
自立・自助の礎を
築くために～

2 “絆”
(きずな)
をつなぐ
～わたしからみんなへ、
互助・協調のネットを
織りなすために～

3 “風”
(かぜ)
をおこす
～ここから世界へ、
さらなる夢と希望を
実現するために～

第2部 “とちぎ”づくりの取組方向

“とちぎ”づくりの戦略テーマ

①
『生きる・まなぶ』
～のびやかな
「とちぎ人」～

1-1
おおらかで
心豊かな人づくり

1-2
すべての人を
やさしく見守る
社会づくり

1-3
世界にはばたく
人づくり

②
『うみだす・活かす』
～明日を拓く
産業・行政～

2-1
“とちぎ”の
原動力づくり

2-2
協働の
システムづくり

2-3
創造の
風土づくり

③
『楽しむ・ふれあう』
～夢ときめく
交流社会～

3-1
にぎわいの
舞台づくり

3-2
だれもが主役の
パートナーシップ社会
づくり

3-3
“とちぎ”の文化・
魅力づくり

④
『つちかう・伝える』
～未来にひきつく
郷土～

4-1
やすらぎと
活力の
基盤づくり

4-2
出会いの
ネットワーク
づくり

4-3
みんなをはぐくむ
環境づくり

はじめに